

# 福田病院が担う役割について

令和5年6月 福田病院

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

福田病院は、女性のライフステージである、誕生から思春期、妊娠出産を迎える成熟期、更年期、老年期に至るまで女性すべての健康を守り、その生活を支援しサポートするウーマンズホスピタルを目差しています。

### 1. 病院の理念

- 1) 私たちは高度で最先端の医療を追求します。
- 2) 私たちは患者様の権利を尊重し、人間的で暖かい医療を提供します。
- 3) 私たちは医療を通じて、地域の人々の幸せに貢献します。

### 2. 基本方針

- 1) 医療の進歩に対応できる人材育成のため、知識、技術、人格を高める環境を整えます。
  - 2) 医療機器、設備、施設の整備と充実を図り、患者様に安全で快適な環境を提供します。
  - 3) 地域周産期母子医療センターとして、常に体制の充実を目指します。
  - 4) 各機関との連携を図り、地域の皆様の要望に応える医療の提供を行います。
- ・7対1一般入院基本料、総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児）（新生児）、小児入院医療管理料3 平均在院日数6.9日
  - ・職員数（常勤医師36名、看護職員304名、その他専門職51名、事務職員68名）
  - ・平成18年3月に熊本県で2番目の「地域周産期母子医療センター」の指定を受け、熊本市民病院、熊本大学附属病院、熊本赤十字病院との連携のもと、熊本県の周産期医療の一翼を担って参りました。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

福田病院は1907年に設立され、医療を通じて女性の幸福に貢献する事を目的とし、その時代に応じて、地域医療の一翼を担って来た女性専門病院です。「安全・安心・快適」をスローガンに、母子の安全を守るため、高度先端医療に取り組んでいます。

100年以上もの間地域医療の一端を担ってきた歴史の中で、私たちは命の重さ、命の尊さを、誰よりも強く知っています。地域周産期母子医療センターとして、NICU、MFICUを併設し、ハイリスクの妊婦と赤ちゃんを県下全域から24時間体制で受け入れています。

この役割については、継続して重責を担っていかなければならないと考えております。

また、新型コロナウイルスに感染した妊産婦等の入院受入医療機関として、簡易陰圧室を含む6床を確保しており、地域における新興感染症への対応についても重要な役割を担っているところです。

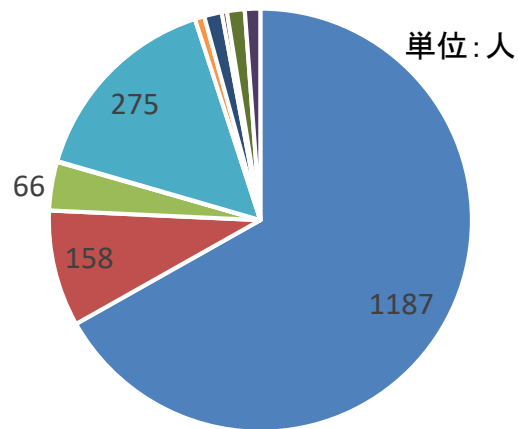
職員確保の面では、産婦人科医師、新生児内科医師の確保が難しい状況にあります。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

2022年

【圏域別の妊婦・赤ちゃん紹介受入実績】

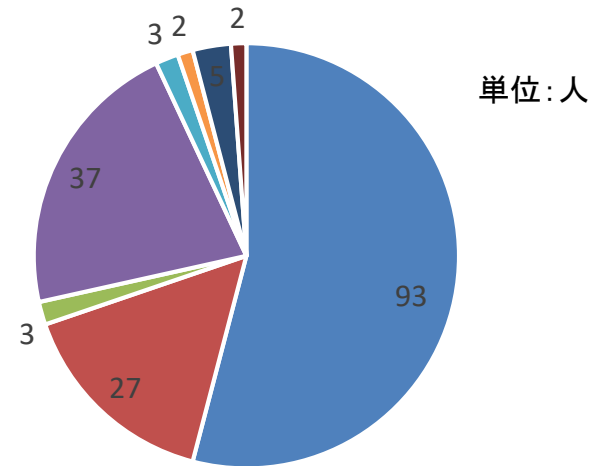


■ 熊本・上益城1187 ■ 宇城158 ■ 有明66  
■ 鹿本1 ■ 菊池275 ■ 阿蘇13  
■ 八代24 ■ 芦北7 ■ 球磨24  
■ 天草21

合計 1,776件

2022年

【圏域別のハイリスク妊婦・赤ちゃん紹介受入実績】



■ 熊本・益城93 ■ 宇城27 ■ 有明3 ■ 菊池37  
■ 八代3 ■ 芦北2 ■ 球磨5 ■ 天草2

合計 172件

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(令和4年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期	30	30	
急性期	131	131	
回復期			
慢性期			
その他			
合計	161	161	

※上表の他、コロナ特例病床が別途6床あり

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

当院は、明治40年の病院開設以来、母子医療の充実に鋭意努力して参りました。関係者各位の了解を得て、平成18年3月に熊本県で2番目の周産期医療の基幹施設として「地域周産期母子医療センター」の指定を受け、熊本県の周産期医療の一翼を担って参りました。

熊本県における母子救急搬送受入体制の改善策として、県外への搬送を無くすことを目標とした熊本県救急医療情報システム（熊本県周産期医療情報ネットワーク）が構築され、各周産期医療機関の空床状況を共有することで、母体と新生児搬送の受入先決定の指標となっています。また、有機的な機能分担を図るため、各周産期医療機関の受入基準が示され運用されています。

更に今後は出生数の減少、産婦人科医師の高齢化により分娩の集約化が各方面から求められており、当院もそれに合わせてセミオープン等を検討しています。

このように充実した体制の構築がなされた現在にあっては、当院の担っていくべき役割は決して小さいものではないと考えるところです。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2022年 4月時点)	2025年	理由・方策
維持	産科、婦人科、小児科、 新生児内科、東洋医学 漢方診療科、麻酔科	産科、婦人科、小児科、 新生児内科、東洋医学 漢方診療科、麻酔科	
新設			
廃止			
変更・統合			

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点( 2023年 4月時点)	2025年
①病床稼働率	71.0%	増加を目指す
②紹介率	45.0%	増加を目指す
③逆紹介率	36.8%	増加を目指す



### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

当院はA水準に適合しているため、960時間以上の勤務時間を要する特例水準の申請は行わないが、医師の勤務負担軽減計画は作成しており、また医師の募集に際しても当直明けの勤務はないことや、夏季休暇や院内保育園等の福利厚生充実などをホームページでアピールして医師の確保に取り組んでいるところである。